

ミミックトイレ

トイレは本来排泄をするための場所である。だが、奴にとっては食事をする場所である。

その捕食者は洋式トイレの便器に擬態し、獲物が来るのを待っている。特に学校は大好物のメスガキが自ら喰われにやってきて、美味そうな尻肉を露わにして便座、つまり彼の口に乗せてくる。あとはその尻肉に喰らいつき丸呑みにしていくだけである。学校のトイレは彼にとっては、さながら食べ放題の食堂のようなところであった。



【第1話】

とある学校の女子トイレ。その中には特殊なトイレがあった。その扉を開けて入った少女は二度と姿を見せることがない。しばらくすると人知れず扉は開き、そこには誰もいなくなっている。

そこにあるのは一見なんのへんてつもない洋式トイレだが、それは仮の姿。本当は妖魔が取り憑いた人喰いトイレであった。トイレの扉を開けたその瞬間からじつはそこは異空間であり、獲物は幻を見せられている。扉が閉まるともうその扉は開かない。次に扉が開くのは、獲物が彼に美味しく喰われた後である。

休み時間、さっそくやってきた獲物は小柄で童顔なツインテール少女。制服のスカートをたくし上げショーツを下ろすと、美味そうなメスの匂いが広がった。汗と尿が混ざったような匂い。その香りに食欲が掻き立てられ彼の口からはヨダレが溢れてくる。

少女から見たら普通の洋式トイレだが、実際には鋭い歯が無数に生えた捕食者の口であった。まるでサメの顎（あぎ

と)のようなその口は獲物からは綺麗で清潔な白い便座にしか見えない。これも幻覚である。

そして少女がその便座に座った瞬間、彼は勢いよくその尻肉に喰らいついた。柔らかい尻肉に鋭い無数の歯が突き刺さる。悲鳴を上げるツインテール少女。しかしその声は誰にも届かない。彼女はこの部屋に入り扉を閉めた瞬間から異空間に閉じ込められていたのだ。

捕食者は喰らいついた歯やあごに伝わる少女の尻肉の感触に快感を感じていた。臀部の脂身に深々と刺さっている無数の歯は、脂肪より奥にある大臀筋ごと喰いちぎりような圧力をかけている。

さらにあごに力を込めると、バキッという音とともに獲物の腰骨が砕ける。ツインテール少女の下半身は裸のまま尿が吹き出す。その尿は彼の口の中へ、喉の奥へと流れてやがて胃の中へと垂れ流される。

彼は少女の尻肉に喰らいついたまま、ヨダレまみれの舌で尻を舐め回す。まずは肛門。香ばしい味が食欲をかきたてる。肛門をひとしきり舐め回すと、こんどは無毛の陰部を舐め回す。毛が生えているであろう年頃ではあるが、この

少女は無毛であった。失禁し尿を垂れ流しつづけているワレメもまた、塩味がきいていて美味であった。少女は何が起こっているのか理解できず、激痛にもだえ恐怖に震えることしかできない。

陰部も舐め回すと彼は雌肉を呑み込んでいく。尻からじよじよに呑み込まれていくツインテール少女。強制的に開脚させられながら、20秒ほどで彼女はバンザイをする形で彼の口の奥へと消えていった。美味しい。彼は獲物の味をじっくりと堪能していた。

彼の名はミミックトイレ。彼はこの方法でこれまで何十匹もの雌肉を捕食してきた。獲物の身体は彼の胃の中で胃液に塗れながらもみくちゃにされていた。胃の中には無数の触手があり、獲物の身体を揉みしだいていき、その過程で衣服をはぎとっていく。

そして彼はペッとそれらを吐き出す。まずは制服。次にスカート。そして靴下。最後にブラジャーとショーツが吐き出された。これで胃の中にはご馳走である雌肉だけが裸の

状態に残ることになる。栄養価の高い雌肉は消化吸収され彼の血肉になっていくことだろう。

1時間ほどすると消化も終わり胃の中は空っぽに。トイレの扉は開き、次の獲物を待つ。ちなみに吐き出されたショーツやブラジャーなどの衣服は異空間にあるため、新たな獲物に違和感を感じさせる要素にはならない。

次の休み時間にやってきた獲物はグラマーで大人びた美少女。女子にしては身長が高く、バストもヒップもたわわな食べ応えのありそうな雌肉であった。